

カフェ・ハチャムに集まれ!

「発寒商店街振興組合」

地下鉄発寒南駅とJR発寒中央駅の間の通り沿いにある発寒商店街は、区内でも歴史の古い商店街の一つです。

以前はたくさん専門店が軒を連ねていた通りも、ここ数年は地域を取り巻く生活環境の変化や商店主の高齢化が進むなど、シャッターを下ろした店が目立つようになりまし。そんな状況に危機感を募らせた発寒商店街振興組合の源光正晴理事長をはじめとする商店主に、思いがけない申し出が舞い込みました。



▲源光さん

▼新しい力で面白いことを

「一緒にまちを元気にしませんか」

平成二十年の春、北大准教授で西区在住の中島岳志さんから話が持ち掛けられました。きっかけは、中島さんが出演するコミュニティFMの番組に商店街

の人がゲストで参加したこと。それから交流が始まったそうで、源光さんは「これも何かの縁。新しい力が加われば面白いことになるのでは」と思ったそうです。

▼コミュニティカフェから情報発信

「まちを元気にするため、いろんな世代の人が商店街に集まるようにしよう」と商店街の人たちと中島さんは考えました。そこで、地域の人たちの活動情報を発信する拠点となる「コミュニティカフェ」を立ち上げることにしました。いざ実行してみると、場所探しや光熱費の負担、さらに情報を発信する団体の募集など、いろいろと課題が出てきました。しかし源光さんは「新しいことをするのが楽しくて、苦にはなりません」と笑います。

▼いよいよ開店「カフェ・ハチャム」

十一月二十九日には一日限定で「コミュニティカフェ」が開かれ、たくさんの人でにぎわいました。店名は発寒の地名の由来にちなんで「カフェ・ハチャム」。一月末ころから本格的な営業を始める予定で「息の長い活動にしたい」と話す源光さん。これからも商店街から元気を発信します。

情けは人のためならず

「八軒中央地区福祉のまち推進センター」

「見守り活動を突き詰めると、災害時の支援体制が必要になります」と話すのは、八軒中央地区福祉のまち推進センター事務局長の九里道明さんです。

同センターでは、大規模な災害などで行政の支援が間に合わない場合を想定し、避難の手助けが必要な住民を支援するルール作りに取り組んでいます。



▲九里さん

この取り組みは市内二カ所のモデル地区で行われており、同地域の町内会もその一つ。

以前から民生委員などと協力して「見守り対象の世帯を把握し」「高齢者見守りマップ」を作成していたこともあり、今までの活動の成果を生かすことができると考えました。

▼住民同士のつながり

この取り組みで大きな問題となったのが、手助けが必要な住民を支援してくれる人をどのように集めるかということでした。支援者を募集するため、町内会

の人たちが、モデル地区全体にチラシを配布したり、戸別に訪問して説明したりと、懸命に呼び掛けました。その結果、百人以上の支援者が集まりました。

支援者募集が成功したのは「町内会の人たちの頑張り」と、住民同士のつながりの強さのおかげ」と九里さん。日ごろから住民同士が声を掛け合うなど、人と人との結び付きを感じさせる雰囲気づくりの大切さを語ります。

▼安心なまち⇨幸せなまち

「安心して住めるまちが幸せなまちです。『情けは人のためならず』で、お互いに助け合うことで、みんなが幸せになります」と九里さんは笑顔で話してくれました。



▲平成20年12月には地元の琴似中央小学校で、児童と地域の人たちが災害時図上訓練(DIG)を行いました。